パキスタンの政治史を書き換える
イムラン・カーン

パンジャブ州選挙での事前予想を覆す前首相イムラン・カーンの勝利は
民主主義とパキスタンの主権の勝利である

MK Bhadrakumar（2022年7月18日）

https://thecradle.co/Article/Columns/13176

インドであれパキスタンであれ、政治権力が離反を煽る無責任な策略によって簒奪され、統治を委任された正統な政府が転覆させられるのは嫌なものである。インドでは、少なくともこれまでのところ、連邦または州レベルの政権交代につながるような謀略を外国勢力が実行したことはない。おそらく1959年に南ケララ州初の共産主義勢力が倒された例を除いて。

南アジアでいうと、ネパール、アフガニスタン、スリランカ、モルジブは、外国による国内政治への干渉が慢性化し風土病と化したケースといえる。しかし、これらの国は外圧の作用を受けやすい小国である。

軍事力によらないクーデター

パキスタンのような南アジアの大国で外国による干渉という呪われた事態が発生したのは、アメリカが公然と当時の首相イムラン・カーンの解任を求め、その後まもなく実際に政権交代が起きたときが初めてだった。

イスラマバードで政権を引き継いだ勢力がどの程度ワシントンから後押しを受けていたのかは分からないし、今後も明らかにはならないかもしれない。しかしこの国の政治エリートが過去に見せたレンティア（ランティエ）精神からすれば、その可能性は排除できない。インドとパキスタンのエリートには強い共通点があり、パキスタンの（文民）エリートは肩越しにアメリカの承認を仰ぐ伝統を長く保持している。

イムラン・カーン自身はそれこそがまさに今回起きたことだと主張している。自らが率いる抗議運動を「ジハード」と呼んでいるのはそのためである。実際、カーン政権下で破綻状態にあった米・パキスタン関係は彼が政権を追われたとたんに急速に改善した。バイデン政権がパキスタンの政権交代を喜び安堵したことの現れといえる。

これまで一度もパキスタンに関心を示したことがなかった米国務長官アントニー・ブリンケンが、突然イスラマバードの新政権（アメリカの上層と親密な関係を保つ強力な政治家系の出身者）に対して高揚した調子の個人外交を始めたことも、彼が中国（とロシア）に対抗する冷戦のチェスボードの駒として新政権をあてにしているという印象をはっきり伝えている。

カーンは終わっていない

しかし、多幸感は長続きしなかった。インドを含め、イムラン・カーンの政治的キャリアは終わったという観測に反し、事態は、彼は今なおパキスタンの現代史そのものであり、どちらかといえば、過去の遺物はイスラマバードの簒奪者の方であることを示している。

カーンの「ジハード」はツナミとなって今日簒奪者たちを飲み込もうとしている。彼が日曜の予備選挙でパンジャブの中心部を襲ったそのやり方は、ラホールだけでなくイスラマバードの権力の回廊にも警鐘を鳴り響かせているに違いない。

地滑り的勝利

実際、全国でカーンに付き従う巨大な群衆は、選挙票に形を変えつつある。真にカリスマ的な政治家がパキスタンの政治風景に現れるのは非常に久しぶりのことである。

カーンは決定的に重要なパンジャブ州議会を手中に収め、彼を誹謗する者や政敵を驚かせた。彼の党は予備選挙で20議席中15議席を獲得し、宿敵であるパキスタン・ムスリム連盟-N（ちなみにイムラン・カーン政権が倒れた後の4月からイスラマバードの連邦政府を率いている）をその本拠地で打ち負かしたのである。

この結果は現首相シャバズ・シャリフに対する大きな打撃であるだけでなく、総選挙で起こりうる事態の予兆と広く受け止められている。イムラン・カーンは2023年10月に予定されている総選挙の前倒しを要求し続けている。

当局者たち

パキスタン軍の支配層は彼のような妖怪に拒否反応を示すだろうという従来の常識は今回くつがえされた（この国の政治の将来にとってよい兆候でもある）。基本的に、軍の指導部と異なる意見を持つ文民政治家は堕天使として追放されるという公理もまた潰えたのである。

実際、イムランカーンが中央のステージに復帰する速さは驚くべきもので、あたかもカーンは一度もステージを離れたことはなく簒奪者たちは単なる闖入者であったというかのようである。

イムラン・カーンは、外国の支援を受けた不浄な日和見主義者の同盟に追われた直後すぐに政治権力の扉を叩くことで、パキスタンの政治史を書き換えた。

パンジャブ州の選挙結果が何か一つの事実を示しているとすれば、それは、この国の人々が民主的な政権選択の意味を理解し、固い決意をもって自らの意思を表明したということである。

そして、誤解のしようもないその意見とは、イムラン・カーンの党を政権から排除した直後のラホールでの政権交代は最低の出来事であり、元通りに是正されなければならないということなのだ。

これがイスラマバードで権力を握っている者たちに対する引導となる可能性は極めて高い。パキスタンが深刻な経済危機に陥っている以上、政治的安定は至上命題であり、正統性を欠いた政権を押し付けられるなどということはこの国に最もあってはならないことである。国家がこのような苦境に立たされたとき、唯一の解決策は新たな選挙を実施し、正当な権限をもって統治する安定した新政府を政権に付けることであろう。

もちろん、権限の存在は統治の正統性を付与するだけであり、よい政府であることを保証するものではないが（バングラデシュは南アジア地域で唯一の例外かもしれない）、それは世界のこの地域の現実として受け入れ可能な事柄である。

カーンの「ジハード」を理解する

イムラン・カーンの「ジハード」は無政府状態を叫ぶものではないし、「カラー革命」を扇動するものでもない。その反対で、法の支配と憲法秩序を厳格に遵守し、パキスタンを安定させるためには、彼を呼び戻すことこそが必要なのである。カーンはただ正当な権限を持った新政府を要求しているだけであり、それは、米国が支援するカーン降ろしのクーデターの兆しが具体的に見え始めて以来彼が一貫して擁してきた立場である。

真の危機は、支配者と被支配民の間に断絶があると、政府が弱体化してその（特に困難な決断が必要な時の）意思決定に影響を与えるというだけでなく、政治的な漂流が無政府状態を引きおこしかねない点にある。そして、そのような状態こそが、現在のパキスタンが決して許容できないものなのだ。

新たな選挙でカーンが政権に復帰することはありうる。同様に、彼の党が今度も過半数に満たず、連立を組むか、野党に甘んじなければならなくなることもありうる。しかし、それでも、現在の膠着状態は打開されなければならない。そして、それは新たな選挙によってのみ可能なのである。

パキスタンの政治的不安定は、重大な転機を迎えている現在の世界情勢の中で、地域の主要国として果たすべき重要な役割を担っているパキスタンの長期的な利益を損なう結果となるだろう。

パキスタンには新たに生まれつつ多極化した世界秩序の中でやらなければならないことがたくさんある。パキスタンの政治エリートが権力の争奪戦に明け暮れてヘマを犯すようなことがあってはならない。そのためには、できるだけ早く新たな選挙を行うことがどうしても必要なのである。